

市川レポート (No.528)

2018年前半の日本株～上昇銘柄と下落銘柄にみる相場のテーマ

- 日経平均の構成企業のうち、年初から株価が上昇したのは57社、下落したのは167社に達した。
- 業種別では、内需に比べて外需の低調さが目立ち、米中貿易摩擦問題が影響したと考えられる。
- 投資家の保守的な動きが当面予想されるが、貿易摩擦懸念後退なら出遅れ銘柄の巻き戻しも。

日経平均の構成企業のうち、年初から株価が上昇したのは57社、下落したのは167社に達した

今回のレポートでは、2018年前半の日本株の動きを振り返り、上昇した銘柄と下落した銘柄の顔ぶれから、相場のテーマを探ります。検証の対象は、日経平均株価と、それを構成する225社です。まず、日経平均株価全体について、2017年12月29日を基準とした2018年7月6日までの騰落率は-4.3%でした。日経平均株価は年初、米長期金利上昇を嫌気して、大きく下落しましたが、その後も上値の重い展開が続いています。

日経平均株価を構成する225社のうち、年初から株価が上昇した企業は57社と、全体の約25%にとどまりました。これに対し、下落した企業は167社と、全体の約75%に達しています（株価が変わらなかった企業は1社）。上昇率の大きい銘柄をみると、医薬品が目立ちますが、これは開発品への売上期待など、個別企業の好材料が重なったことによるものとみられます（図表1）。

【図表1：日経平均株価構成銘柄の騰落率】

上位10社			下位10社		
企業名	業種	騰落率	企業名	業種	騰落率
太陽誘電	電気機器	80.0	東邦亜鉛	非鉄金属	-37.3
資生堂	化学	50.2	三井金属鉱業	非鉄金属	-37.3
東海カホン	ガラス・土石製品	43.9	パナソニック	電気機器	-36.4
イーザイ	医薬品	43.5	日本精工	機械	-35.9
第一三共	医薬品	42.8	古河電気工業	非鉄金属	-33.8
エー・ファミリーマートHD	小売業	41.9	川崎汽船	海運業	-33.6
大日本住友製薬	医薬品	40.6	フジクラ	非鉄金属	-33.3
パナソニック・インクス	陸運業	34.8	東リ	化学	-33.0
パナ	その他製品	30.3	古河機械金属	非鉄金属	-31.5
TDK	電気機器	24.8	フタバ	情報・通信業	-31.5

(注) データは2017年12月29日から2018年7月6日。業種は東証33業種。騰落率の単位は%。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【図表2：日経平均株価構成銘柄の業種別の動き】

年初から株価が上昇した企業の割合が5割超の業種			
業種	構成企業数	上昇	下落
医薬品	9社	5社 (55.6%)	4社 (44.4%)
石油・石炭製品	2社	2社 (100.0%)	0社 (0.0%)
電気・ガス業	5社	5社 (100.0%)	0社 (0.0%)
陸運業	10社	5社 (50.0%)	4社 (40.0%)
年初から株価が下落した企業の割合が5割超の業種			
業種	構成企業数	上昇	下落
鉄鋼	5社	1社 (20.0%)	4社 (80.0%)
非鉄金属	10社	0社 (0.0%)	10社 (100.0%)
機械	15社	1社 (6.7%)	14社 (93.3%)
輸送用機器	13社	1社 (7.7%)	12社 (92.3%)

(注) データは2017年12月29日から2018年7月6日。業種は東証33業種。陸運業の10社のうち1社は株価不変。上昇・下落社数のカッコ内は構成企業数に対する割合。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

業種別では、内需に比べて外需の低調さが目立ち、米中貿易摩擦問題が影響したと考えられる

次に、日経平均株価を構成する企業を、東証33業種の分類に基づき、業種毎の動きを確認します。年初から株価が上昇した企業の割合が5割超の業種は、医薬品、石油・石炭製品、電気・ガス業、陸運業などで、内需が目立ちます（図表2）。石油・石炭製品は、原油高が追い風になったと考えられます。また、電気・ガス業は、もともと景気に左右されにくい業種ですが、2016年、2017年とパフォーマンスが低迷した反動もあると思われます。

一方、下落した企業の割合が5割超の業種は、鉄鋼、非鉄金属、機械、輸送用機器などで、外需が目立ちます。米中貿易摩擦問題が大きく影響したとみられ、鉄鋼に分類される5社のうち、年初から株価が下落しているのは4社、非鉄金属は10社すべて、機械は15社のうち14社となっています。また、米国が自動車の輸入関税を引き上げる恐れもあることから、輸送用機器は13社のうち12社の株価が下落しています。

投資家の保守的な動きが当面予想されるが、貿易摩擦懸念後退なら出遅れ銘柄の巻き戻しも

日経平均株価を構成する225社の株価純資産倍率（PBR）をみると、1倍が2社、1倍を下回ったのは78社、1倍を上回ったのは145社でした。さらに、1倍を下回った78社のうち、年初から株価が上昇した企業の割合は11.5%、下落は88.5%でした。一方、1倍を上回った145社のうち、株価上昇企業の割合は31.7%、下落は67.6%、変わらずは0.7%でした。つまり、バリュー株よりもグロース株の方が幾分優位と考えられます。

日経平均株価の構成銘柄について、年前半の動きをみると、リスクを抑制しつつ、個別企業の好材料を物色する投資家の様子がうかがえます。そのため、米中貿易摩擦問題が市場の焦点となっている間は、外需より内需、バリューよりグロースが選好されやすく、好材料企業を物色する保守的な動きが続くと予想されます。ただ、米中貿易摩擦問題に対する懸念が和らげば、外需やバリューの巻き戻しという展開も、考慮しておく必要があるように思われます。

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。
- 当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人日本投資顧問業協会会員/一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員

取り扱い金融商品に関する留意事項

●商号: 岡三オンライン証券株式会社/金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第52号

●加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

●リスク:【株式等】株価変動による値下りの損失を被るリスクがあります。信用取引、先物取引、オプション取引および株価指数証拠金取引では投資金額(保証金・証拠金)を上回る損失を被る場合があります。株価は、発行会社の業績、財務状況や金利情勢等様々な要因に影響され、損失を被る場合があります。投資信託、不動産投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等は、裏付け資産の評価額(指数連動型の場合は日経平均株価・TOPIX等)等、先物取引、オプション取引および株価指数証拠金取引は対象指数等の変化に伴う価格変動のリスクがあります。外国市場については、為替変動や地域情勢等により損失を被る場合があります。上場新株予約権証券は、上場期間・権利行使期間が短期間の期限付きの有価証券であり、上場期間内に売却するか権利行使期間内に行使しなければその価値を失い、また、権利行使による株式の取得には所定の金額の払込みが必要です。株価指数証拠金取引では建玉を保有し続けることにより金利相当額・配当相当額の受け払いが発生します。【外貨建て債券】債券の価格は基本的に市場の金利水準の変化に対応して変動するため、償還の前に売却すると損失を被る場合がございます。また、額面金額を超えて購入すると償還時に損失を被る場合がございます。債券の発行者又は債券の元利金の支払いを保証している者の財務状態の悪化等により、債券の価格が変動し損失を被る場合がございます。債券の発行者又は債券の元利金の支払いを保証している者の財務状態の悪化等により元本や利子の支払いが滞り損失を被る場合がございます。外貨建て債券は外国為替相場の変動などにより、円換算でのお受取金額が減少する恐れがあります。これにより円換算で投資元本を割込み、損失を被る場合がございます。【FX】外国為替証拠金取引(以下、「FX」という。)は預託した証拠金の額を超える取引ができるため、対象通貨の為替相場の変動により損益が大きく変動し、投資元本(証拠金)を上回る損失を被る場合があります。外貨間取引は、対象通貨の対円相場の変動により決済時の証拠金授受の額が増減する可能性があります。対象通貨の金利変動等によりスワップポイントの受取額が増減する可能性があります。ポジションを構成する金利水準が逆転した場合、スワップポイントの受取から支払に転じる可能性があります。為替相場の急変時等に取引を行うことができず不測の損害が発生する可能性があります。【各商品共通】システム、通信回線等の障害により発注、執行等ができず機会利益が失われる可能性があります。

●保証金・証拠金:【信用】最低委託保証金 30 万円が必要です。信用取引は委託保証金の額を上回る取引が可能であり、取引額の 30%以上の委託保証金が必要です。【先物・オプション】発注必要証拠金および最低維持証拠金は、「(SPAN 証拠金額×当社が定める掛け目) - ネットオプション価値の総額」とし、選択取引コース・取引時間によって掛け目は異なります。当社の Web サイトをご確認ください。また、変更の都度、当社の Web サイトに掲載いたします。【株価指数証拠金取引】発注証拠金(必要証拠金)は、株価指数ごとに異なり、取引所により定められた証拠金基準額となります。Web サイトで最新のものをご確認ください。【FX】個人のお客様の発注証拠金(必要証拠金)は、取引所 FX では、取引所が定める証拠金基準額に選択レバレッジコースに応じた所要額を加えた額とし、店頭 FX では、取引金額(為替レート×取引数量)× 4%以上の額とします。法人のお客様の発注証拠金(必要証拠金)は、取引所 FX では、取引所が定める証拠金基準額とし、店頭 FX では、取引金額(為替レート×取引数量)× 金融先物取引業協会が公表する数値とします。発注証拠金に対して、取引所FXでは、1取引単位(1万又は10万通貨)、店頭FXでは、1取引単位(1,000 通貨)の取引が可能です。発注証拠金・取引単位は通貨ごとに異なります。Web サイトで最新のものをご確認ください。

●手数料等諸費用の概要(表示は全て税込・上限金額):【日本株】個人のお客様の取引手数料には1注文の約定代金に応じたワンショットと1日の合計約定代金に応じた定額プランがあります。法人のお客様は1注文の約定代金に応じたワンショットのみとなります。ワンショットの上限手数料は現物取引で 3,240 円、信用取引で 1,296 円。定額プランの手数は現物取引の場合、約定代金 100 万円以下で上限 864 円、以降約定代金 100 万円ごとに 540 円加算、また、信用取引の場合、約定代金 200 万円以下で上限 1,080 円、以降約定代金 100 万円ごとに 324 円加算します。手数料プランは変更可能です。信用取引手数料は月間売買実績により段階的減額があります。信用取引には金利、管理費、権利処理等手数料、品貸料、貸株料の諸費用が必要です。【上場新株予約権証券】日本株に準じます。【中国株】国内取引手数料は約定金額の 1.08% (最低手数料 5,400 円)。この他に香港印紙税、取引所手数料、取引所税、現地決済費用の諸費用が必要です。売買にあたり円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。【外貨建て債券】外貨建て債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により購入する場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。外貨建て債券の売買、償還等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。【先物】取引手数料は、通常取引コースの場合、日経 225 先物が 1 枚につき 324 円(取引枚数により段階的減額あり)、日経 225mini、ミニ TOPIX 先物、東証 REIT 指数先物、TOPIX Core30 先物、東証マザーズ指数先物、JPX日経インデックス 400 先物が 1 枚につき 43 円、TOPIX 先物、日経平均 VI 先物が 1 枚につき 324 円、NY ダウ先物が 1 枚につき 864 円。アクティブ先物取引コースの場合、日経 225 先物が 1 枚につき 270 円、日経 225mini が 1 枚につき 27 円です。【オプション】取引手数料は、日経 225 オプションが約定代金に対して 0.1728% (最低手数料 216 円)、TOPIX オプションが約定代金に対して 0.216% (最低手数料 216 円)です。【株価指数証拠金取引】取引手数料は、1 枚につき 153 円です。【投資信託】お申込みにあたっては、当該金額に対して最大 3.78%の申込手数料をいただきます。換金時には基準価額に対して最大 0.75%の信託財産留保金をご負担いただく場合があります。信託財産の純資産総額に対する信託報酬(最大 2.484% (年率))、その他の費用を間接的にご負担いただきます。また、運用成績により成功報酬をご負担いただく場合があります。詳細は目論見書をご確認ください。【FX】取引所 FX の取引手数料は、くりっく 365 が無料、くりっく 365 ラージが 1 枚につき 1,000 円です。店頭 FX の取引手数料は無料です。スプレッドは、通貨ごとに異なり、為替相場によって変動します。Web サイトで最新のものをご確認ください。

●お取引の最終決定は、契約締結前交付書面、目論見書等およびWebサイト上の説明事項等をよくお読みいただき、ご自身の判断と責任で行ってください。